



〈紹介及批評〉横濱高等商業學校教授小幡孫二氏著  
『高等金利計算學』

原口, 亮平

---

(Citation)

国民経済雑誌, 42(3):511\*-512

(Issue Date)

1927-03

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCOI)

<https://doi.org/10.24546/00053957>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053957>



average の何たるを示さず、唯その例を擧げるに止めた  
るは語詞を意義を明らかにする所以でない。

經濟的減價に關する『舊式』の説明と其の例 *table*  
の算式とは適合してをらぬ。後の計算には尙若干の假  
定が必要がある。

用語に關し最大の注意を拂ひ居る著者は慣用語の價  
却を捨て、銷却なる語を用ひてをる。銷却なる文字が  
償却に優るべきことは想定せられるも、之を『減價』に  
結合して『減價を銷却する』といふ如きは、邦語とし

横濱高等商業學校教授小幡孫二氏著

## 高等商業學校教授小幡孫二氏著 等 金 利 計 算 學

原 口 亮 平

本書は從來の商業計算は斷片的にして、箇々の計算  
獨立し、統一少く理論的根柢乏しい。金利計算に於て

も亦然り、との見地にに基づき、公にせられたものであ  
る。内容は利息、確定年金、賦金及び放資より成つて

て意味を成すものなりや、疑なきを得ない。改正して  
新用語を用ふるには、少くとも改良の跡顯著なるもの  
でなければならぬ。

著者によりて大に啓發せられた私が、非禮の辭を敢  
てしたることを深く謝する。但し是れ徒に稱贊の語を  
連ぬることは學者に對する道でないことと信じたるに  
よる。(大正十五年十二月二十日)。

をり、類書に論ぜられてをる普通の題目を包含してをる。

本書には高等數學を用ひてをる。著者は、努めて初等の計算に依りたるも、已むことを得ずして之を導入した、といふ。凡そ金利計算の稍進みたる研究には、この力を藉ることを要するはいふまでもない。されど余輩は、已に高等數學の知識を讀者に要求する以上、總べての記述、研究の範圍を一層高くするを可なりと信ずるものである、利息研究の處女地は此の方面に存するものが頗る多い。斯くして本書のレーゾンデートル

がヨリ多く認められるのである。

細目に關する論議は茲に之を省略する。唯一言附記すべきことは、減價償却を本書に論じたるは、蛇足の感がある。年金的償却法の如きは、金利計算に依るべきものもあるも、之を以て減價償却の全部を論ずるに及ばない。又債券の買入償還に關し、市場價格を定數と爲し、恰も其の價格を債券償還金額と同視せし如きは少くとも、實際に於ける買入償還を説明したものでない。妄評多謝。(大正十五年十二月十五日)。